

2022年度 静岡県言語聴覚士会 全体研修会 開催

2023年2月5日、2022年度静岡県言語聴覚士会全体講演会をZoomで開催しました。司会に聖隷三方原病院の森脇元希先生、進行役は漆畑緩南先生、角田潤先生、秋山直登先生のもと、成人失語2症例、成人嚥下1症例の計3症例と充実した検討会となりました。明日からの臨床に活かせる意見交換が行われ、貴重な自己研鑽の場となりました。

「左被殻出血により語音聾を呈した一例」

発表者 浜松市リハビリテーション病院
進行役 静岡リハビリテーション病院

稲垣翔太 先生
漆畑緩南 先生

40歳代男性で左被殻出血により語音聾を呈した症例について発表して頂きました。退院までの約1か月の訓練期間中に、機能訓練のみならず、代償コミュニケーション手段の獲得、家族指導、今後の就労についてのアプローチも必要であった症例でした。「言葉の言っている意味が分からない」との主訴があることや、環境音の認知が良好なこと、SLTA聴く項目の1音からの低下、母音の同定困難、またクリック音融合検査や独自に工夫された評価を実施されていました。

訓練内容は①音節と仮名のマッチング②単語や短文と絵のマッチング③短文の理解を行いました。再評価では、SLTAの聞く項目は単語・短文レベルで改善が認められましたが、復唱は向上が認められませんでした。

参加者に障害の解釈や評価や訓練方法、実際に訓練を行った際の疑問などを質問され、それに対し、患者様の残存している機能を活用した具体的なアプローチのアドバイスがありました。稲垣先生ご自身は機能訓練を重視し、代償コミュニケーション手段の対応が遅れたことを今後の課題に挙げられていました。参加者からは失語症は3か月までは急性期であり、安易に代償方法に頼らず、機能訓練を重視したことで訓練効果があったのではないかとの見解がありました。

項目	予定評価	経過観察
主訴	耳鳴を聴いているみたい、何と書けるか分からない	ヘルペスウイルスは感染後、聴覚障害の発症、再発、再発を繰り返す可能性がある
聴覚機能	平均聴力レベル正常範囲	正常範囲内、聴覚の軽度上昇
言語機能	認知良好	認知良好
聴覚的聴覚	認知良好 (34/36点) (聴覚低下認めない)	認知良好 (34/36点) (聴覚低下認めない)
クリック音	2音が分離する聴力の範囲	2音が分離する聴力の範囲
音節融合検査	37.5mssec	15~20mssec
言語理解	単語の同定も困難 (1音から聴覚)	単語の同定も困難 (1音から聴覚)
読解	読解も困難 (1音から聴覚)	読解も困難 (1音から聴覚)
読解	読解も困難 (1音から聴覚)	読解も困難 (1音から聴覚)
読解	読解も困難 (1音から聴覚)	読解も困難 (1音から聴覚)

「交叉性失語を呈しコミュニケーションに難渋した一例」

発表者 天竜すずかけ病院
進行役 静岡リハビリテーション病院

鈴木侑実 先生
角田潤 先生

交叉性失語患者のコミュニケーション方法獲得に難渋した症例を発表して頂きました。一般的に交叉性失語は、失文法やジャルゴン失書といった特徴はあるが、予後は良好とされています。しかし今回の症例は、言語評価、Edinburgh利き手テスト、高次脳機能評価、病棟生活場面等から総合的に評価した結果、様々な高次脳機能障害を合併していることが

1. どのような評価を他に行えば良かったか。
2. 効果的な訓練内容はあったか。
3. 重度失語症者のコミュニケーション手段
4. 退院先へ伝えられること。
5. 重度失語症・交叉性失語患者の経緯談

判明、そして言語機能においてはすべての言語モダリティに低下を認め、全失語と判断されました。失語の他、口部顔面失行、脱抑制、空間無視、注意障害、コミュニケーション障害も合併していた為、訓練指示が入りにくいことが多かったそうです。

訓練内容は単語・動詞絵カード選択、書字訓練、コミュニケーションカードを使った訓練として、最終目標を

Yes/No 表出、挨拶程度のコミュニケーションに設定されました。

単語・短文の聴覚的理解は改善したものの、コミュニケーションボードの活用や Yes/No の正確性は上がらず、退院まで解消されなかった課題が残存されたそうです。一方、嚥下訓練によって嚥下調整食Ⅲを経口摂取が可能となり、また ADL の一部に向上が認められ、FIM23⇒38 点と改善していました。

今症例においては失語症と様々な高次脳機能障害の合併により、実用的コミュニケーション手段の確立に難渋したそうです。この経験から、交叉性失語の重症例の報告が比較的小さいのは失語症よりも高次脳機能面が優先されてしまうからなのではないかと推察されていました。

「経鼻経管栄養から 3 食経口摂取が可能となった重度アルツハイマー型認知症の一例 - 療養型病棟での取り組みと工夫 -」

発表者 湖山リハビリテーション病院

岩田奈未 先生

進行役 浜松市リハビリテーション病院

秋山直登 先生

アルツハイマー型認知症患者が、新たに左前頭葉皮質下出血を発症し、非経口摂取となっていました。病棟スタッフと 3 食経口摂取を目標に取り組んだ結果、経口摂取可能となった症例を発表して頂きました。

自発性低下や認知機能低下により、嚥下機能評価のスクリーニングテストの実施が困難であり、臨床場面の観察下で口腔器官を評価、棒付きキャンディーを用いて先行期、口腔期、咽頭期の評価を行った結果、嚥下反射パターンは残存していることがわかり、病棟と協力し離床や集団レクリエーション、嚥下リハビリを実施しました。6 カ月後には座位で全粥・軟菜食・とろみなし水分での 3 食経口摂取が可能となり、また患者の表情が豊かになり、笑顔や「おいしい。」との発話も増えたそうです。

既存の嚥下評価が実施できない場合でも、アイデアや工夫で患者の機能を適切に評価ができました。また、その結果を活かして、多職種で目標を共有し取り組むことができた為、経口摂取再獲得が可能となりました。

ST 以外のスタッフにも、患者に対して関心を持ってもらえるよう、人目に付く場所で嚥下訓練を実施する、食事をイベントとして取り上げる等の工夫もされていました。そして、理解者や協力者を徐々に増やしていったそうです。協力者を増やすことでチームアプローチがより円滑になったそうです。



アンケートの感想(発表内容について)

- ・貴重な症例発表で大変勉強になりました。
- ・純音聴力検査値が正常、聞き取りは母音の同定困難とのことでしたが、語音了解閾値検査などで数字などは評価可能だったかが気になりました。
- ・どれも興味深い発表で改めて自分の視野の狭さと知識不足を感じたがそれ以上にもっと目の前の患者様には何が出来るか、できるところに着目しようとする良い機会となった。
- ・評価に対する訓練プログラムや病棟との関わり方が理解できた。
- ・"自分が経験したことの無い症例についての報告を聞くことができ、今後の参考になった。
- ・他病院の様々な先生方の意見も聞くことができ、勉強になった。
- ・語音聾、重度の交叉性失語など今まで経験したことない症例の評価や訓練に至るまでの考え方やプロセス、今後の参考にさせていただきます。食事に関しては病棟との情報共有で明

日からいかせること、努力できることも多いと感じました。

・語音聾、交叉性失語、療養型でのアルツハイマー型認知症とそれぞれの評価やアプローチについてとても勉強になりました。それぞれの利用者様の表情が見える発表だと感じました。特に3例目の認知機能が基盤にある事、他職種に伝えていく事は訪問リハ、通所での関わりがある当事業者でも重視している部分です。CBA を利用した評価なども試行していますが、今回の発表内容を参考にさせて頂き、更にその方に応じた楽しみ、目標設定実現ができる様に工夫し取り組んでいきたいと思いました。

・今回私は発表する側でしたが、先生方の貴重なご意見を聞ける良い機会だと思いました。患者様にとって楽しみに思えることはなにか、頭では分かっているでも自分の対応が不十分であったことも痛感しました。別の先生方のお時間でも、各病院によって工夫することや対応が異なるため、他職種との共有の工夫や病棟を巻き込むリハビリを私の病院の方でも取り入れていきたいと思いました。

・私も似たような症例を経験しましたし、その都度試行錯誤を重ねてアプローチしてきました。失語症に対しては、何に焦点を当てて訓練を提供していくか、が難しいものですね。

・語音聾の発表では、細かく評価されていて、参考になりました。語音聾や音韻聾など細かい部分をさっそく勉強したいと思いました。

・どの症例もしっかり評価され訓練計画がたてられていて素晴らしいと思った。普段小児分野で仕事をしているので、今回の演題は学生以来に聴くような用語もあり、改めて知識を深めなくてはと感じた。

・発表された先生方がよく文献を調べたり、他職種と上手くコミュニケーションをとっていたりしていて大変素晴らしいと思った。

・経験豊富な皆様に様々なご指摘頂き、どのような点を確認していかなければならないかわかりました。一方検討事項の一部は聞く事ができましたが、十分に聞く事ができませんでした。自身からフロアの皆様へもっと質問すべきだったと反省しました。

・他職種との関わりや病棟での生活をみることの大切さをあらためて感じました。

どの発表も大変勉強になりました。特に最後の発表は患者の QOL を大きく変える素晴らしい取り組みと感じました。関わる側の姿勢やアプローチの重要性を学びました。

・若い先生方が熱心に臨床に取り組まれていて活発にやりとりがあって良かったと思います。

アンケートの感想（全体研修会の今後の形式について）

・情勢によって対応してほしい 17名（48%）

・WEB 開催がよい 12名（46%）

・どちらでもよい 3名（6%）

アンケート（受講中画面共有できないことが）

・なかった 31名（96%）

・あった 1名（4%）

アンケート（受講中音声途切れたことが）

・なかった 16名（50%）

・あった 16名（50%）

アンケート（メールからの発表者資料印刷について）

・メールでデータ便の URL が届き、ダウンロードも印刷もできた。 32名（100%）

・メールでデータ便の URL が届いたが、ダウンロードや印刷ができなかった。 0名

・メールで添付ファイルとして届いたが、印刷できなかった 0名

アンケート (WEB 講義の感想)

メリット

- ・映像ともに問題なく、快適に受講する事ができました。
- ・とても良かったです。運営ありがとうございました。
- ・自宅で受講できるため、場所を問わず参加できることがありがたいです。
- ・参加しやすくてよかったです
- ・コロナ禍も長くなり、zoom の扱いにも慣れ、参加しやすい印象。
- ・一例目の発表と三例目の質問時間の進行の際少し音声の乱れがありましたが、概ね支障なく受講できました。
- ・無駄な時間が少なく、先生方の顔がよく見れるためとてもよかったです。
- ・今後現地で開催が再開しても、web 配信は残していただけると参加しやすい為ありがたいです。
- ・移動時間が無く参加しやすいです
- ・今回は家族がコロナ罹患、自分も濃厚接触者となった為、自宅から受講でき、大変ありがたかったです。
- ・育児中でも手軽に参加できてありがたいと思う。質問や意見を述べる方が決まっているのでいろんな方の考えを聞ける方法があるとよいと感じた。
- ・子供がいても参加しやすくて助かります。

デメリット

- ・質疑応答がもう少し効率的かつまんべんなく行えたらいいと感じた。
- ・画面が見れなかったり、音声確認が難しいことがあり何度も退出、入室をしていました。
- ・ネット環境が悪く聞こえづらいことがありました。

アンケート (2022 年 1 月～2023 年 1 月まで参加した研修会・学会でよかったもの)

- ・柴本先生の嚙下
- ・第 25 回 日本全体構造臨床言語学会学術集会
- ・横浜嚙下研究会
- ・日本認知症ケア学会
- ・静岡県東部発達障害者支援センターアスタの岩永先生の「発達の特徴がある人の感覚と運動について
- ・気管切開患者の発語嚙下に対するマネジメント